



アートフル・摄田屋 絵画・美術編

(artful_settaya_001_paintings)

2023年10月に実施した座学と現地ガイドツアー、
アートフル・サフランの摄田屋版です。
いつか、この座学と現地ガイドツアーをセットでご案内したいと
思っています。

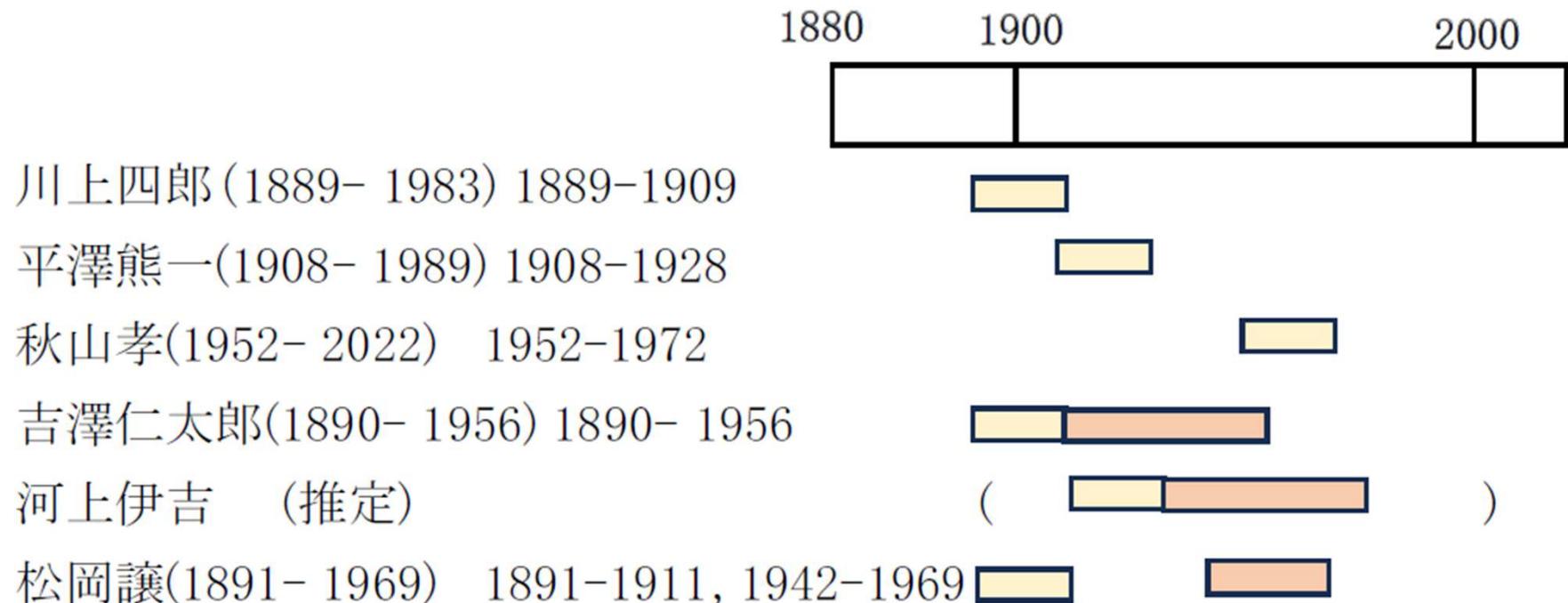
絵画・美術編では、こんな順番で、お話しします。

1. 平澤熊一
2. 川上四郎
3. 秋山孝（ポスター美術館）

三人が絵にした摂田屋風景が、残っています。
特に、平澤熊一、川上四郎の摂田屋の絵の
スケッチ場所を想像してみて下さい。

4. 番外編として、河上伊吉、松岡譲
5. 美術の風土

ちなみに、この五人の長岡にいた年代は？
20歳までと、その後の年代を比較すると、
意外に近い方々がおられることがわかる。



2. 平澤熊一(1908-1989)

- ① 平澤熊一 の「南苑」
- ② 春日のガイドポイント
- ③ 年譜 (1908-1989)

参考

見附ギャラリー パンフレット

2019_没後30年 平澤熊一・若井宣雄展チラシ

①平澤熊一
の「南苑」
(1908–1989)



「孔雀」をモチーフとした油絵 《南苑》 1943 F120 (130×194cm)

平澤熊一の「南苑」展示先の見附市みつけギャラリーのホームページに、『1943年（昭和18）第4回美術文化協会展に《南苑》などを出品、奨励賞を受ける』とあります。

（一部に、1950年、移転先の栃木県宇都宮で製作との記述も散見されますが、誤りのようです。）

平澤熊一の代表作といえる、この大作は、現在、長岡隣の見附市、の「ギャラリーみつけ」に、ほぼ常設展示されています。貧乏に苦労し、栃木にアトリエ付きの一軒家を贖うために、自身の代表作とも云うべき大作「南苑」を手放すことにし、たまたま長岡の町が空襲で長岡の商家に余裕がない時、隣り町見附の織物協同組合が買い取ってくれ、最終的に 見附市の所蔵美術品として、今日に至っています。

それも、偶然、再発見。

②平澤作品 春日のガイドポイント

平澤熊一は、父親、そして兄が大工で、サフラン酒の離れを作るほどの家に生まれながら、たまたま家業の建築を学ぶ途中で絵への情熱を捨てがたく、勘当されても絵描きを続けました。

戦前の作品が東京大空襲で全て火災で失われているそうです。

私の想像ですが、「南苑」は、きっと疎開中に摂田屋で製作し、手元にあったと思われます。

戦後5年たったころ、長岡の商工業界がまだ復興途上で、隣の見附織物協同組合が買い取ったようです。
長岡に全く余裕がなかったのか、見附の織物業が強かったのか。

その見附織物協同組合が近年、2023年に解散しました。
構造変化と産地再編成といえば、それだけですが、
一時は県内の織物・ニット業界をリードし、そして
「南苑」の永住の地を作ってくれた組織ですので、
少し寂しい気がします。

平澤作品@近美



攝田屋風景
1947 (近美所蔵品)

どこからの風景でしょう。
見当が、つきますか？

平澤作品@近美



摂田屋風景
1947 (近美所蔵品)

残念ながら場所の特定には至っていませんが、太田川土手の上から見た風景のようにも感じられます。

もしかしたら、中央の道は、現在の「バス、村松蓬平線」、かつての「行者の道」かと思っています。

草むら
1960年代

(近美所蔵品)



③ 平澤熊一年譜 (1908-1989)

1908(明治41)年、新潟県古志郡上組村大字摺田屋生まれ。

1927(昭和2)年、工学院建築科を卒業。

1928(昭和3)年、川端画学校洋画科で学ぶ。

1943(昭和18)年、第4回美術文化展で「南苑」が奨励賞。

1945年(昭和20)空襲を避け5月頃、長岡に疎開する。

1950年(昭和25)妻の実家のある宇都宮に移り、以後、ここで
絵画研究所を主宰するなど、活動。

1955(昭和30)年、自由美術協会会員となる。

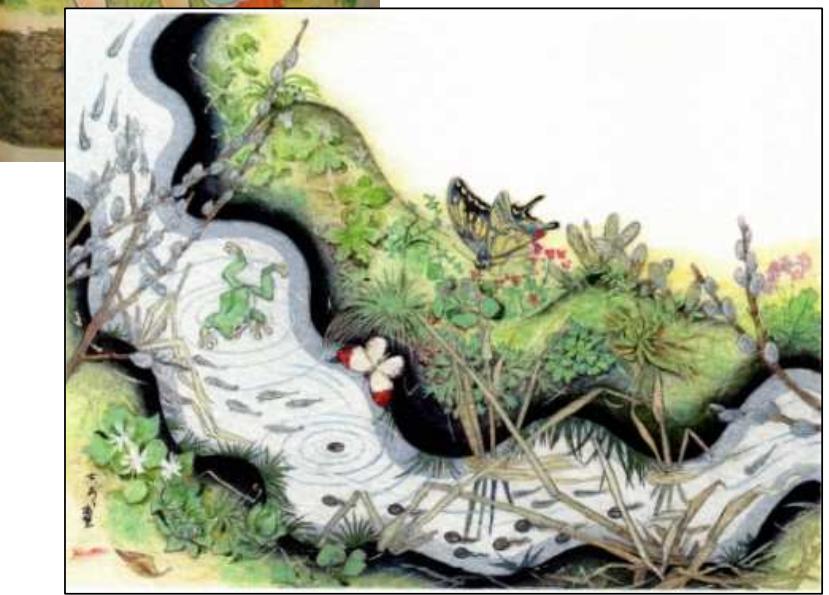
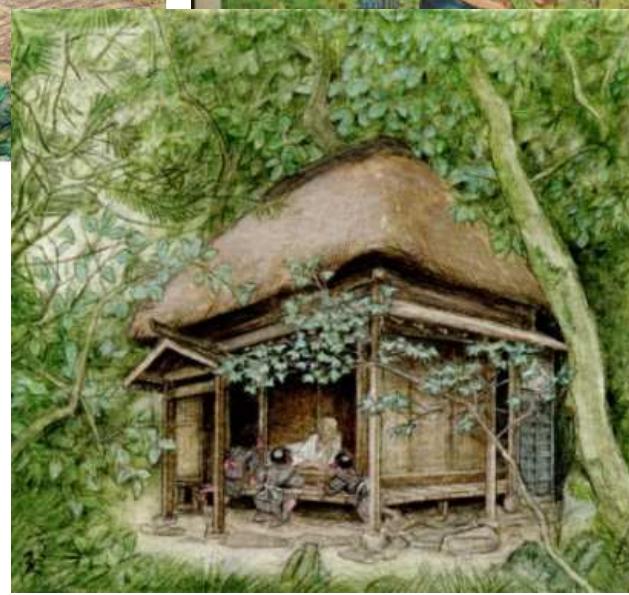
1989年12月4日逝去。享年81。

2. 川上四郎(1889 – 1983)

東京美術学校西洋画科本科で藤島武二に学ぶ。
大正2年同科を卒業後、独協中学に奉職したが、
同5年、コドモ社に入って童画家となり、同社の雑誌
「童話」を舞台として活躍した。
童画の芸術的地位を高めるため、童画という名称を作り、日本童画家協会を結成、のち、日本童画会々員となる。

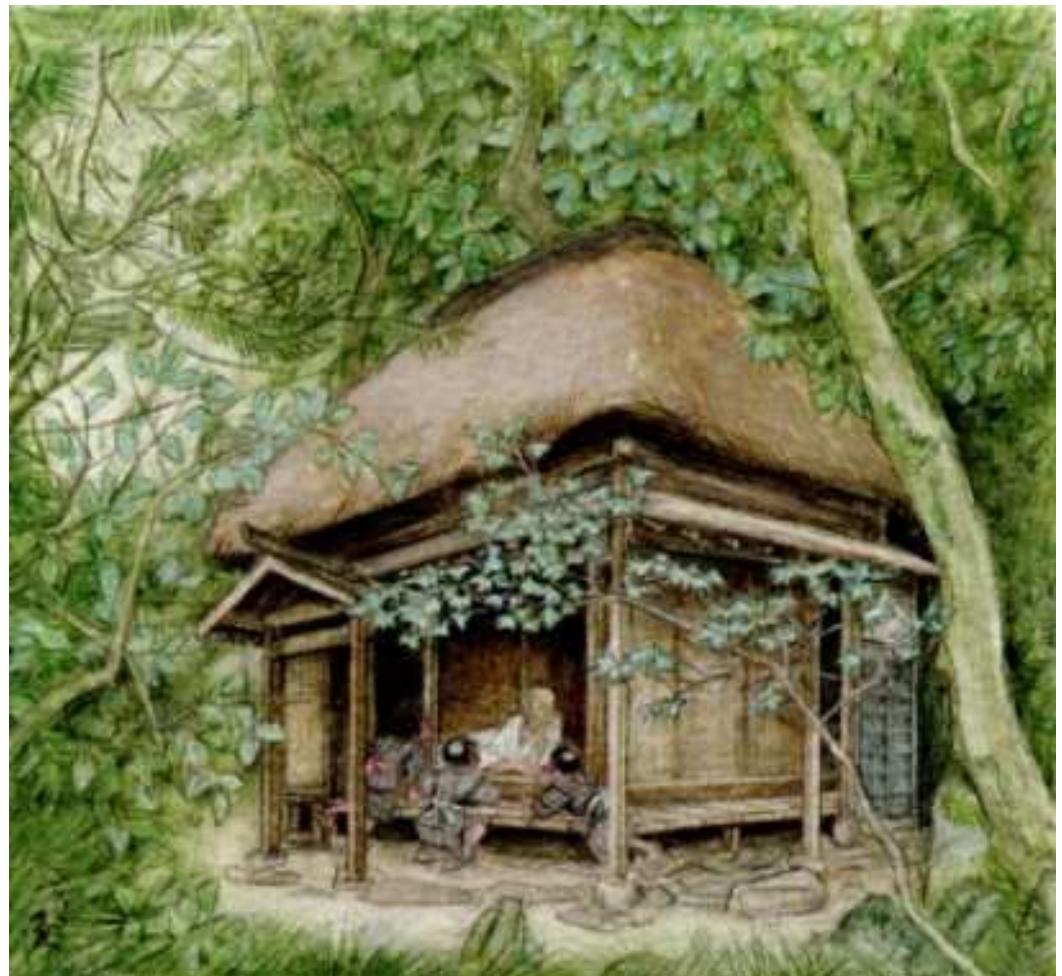


童画作家を
超える、確かな
日本画描画。



五合庵(1975)

86才のときの作品です。
「童画」の雰囲気を残しつつ
職業としての「童画」を超えて、
細かなところまで描き込んだ
絵だと思います。



摂田屋風景として、
こんな作品を
残してくれました。

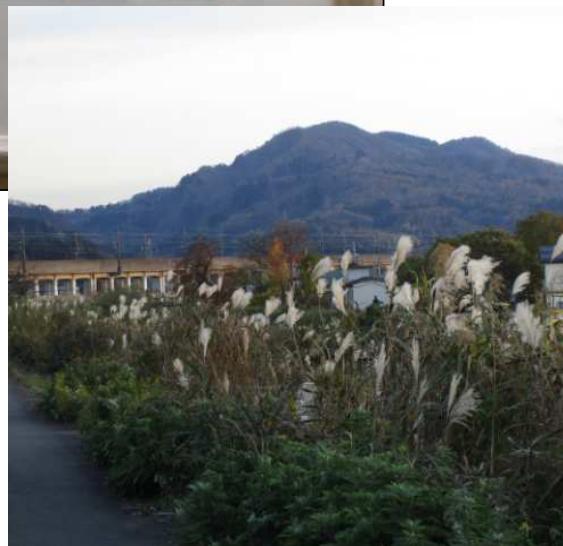
長岡高校記念資料館の
所蔵品
在学時の作品「一本橋」





摂田屋風景として、こんな作品を
残してくれました。

長岡高校記念資料館の
所蔵品
在学時の作品「一本橋」



太田川から東を遠望した
絵で、後ろの山が金倉山
の山並みとわかります。

生家付近の絵として、二枚、掲載します。
どこから見たと思いますか？



生家の絵



田舎の絵

生家の絵 付近の絵

摂田屋 川上四郎の生家付近の童画

投稿者 春日正利 2024.2.10



生家の絵



田舎の絵

土手を東に向い、北に見える吉乃川の上組蔵の西面が隠れるあたりが、1889年生まれの川上四郎の生家です。左上図が生家の土蔵、手前の小川は、今も流れています。

小川は生活用水で、水利権もあって殆ど場所は変わりません。上の土蔵、下の田園風景も、ともに四郎の作品。きっと土手の稻架木に登ってスケッチしたのでしょう。

このあたりは、中世に摂田屋城があったところでもあります。「定明」のところでも述べましたが、摂田屋城は、鷺巣城、定明城、上条城とともに、中越南部平野部の守りを固めていたと思うのです。でも全てが景虎側。御館の乱では景勝側に敗れ、ひとつも残っていません。

ここは、柄尾城(のろし)、栖吉城、村松城が見渡される絶好の場所だったと思います。

3. 秋山孝(1952 – 2022)

宮内生まれ。

イラストレータ、グラフィックデザイナ、イラストレーション学研究家。

多摩美術大学教授。

秋山孝ポスター美術館長岡館長を務めた。

再オープンの背景（ミライ発酵本舗のWebページより）

長岡市出身で令和4年1月18日にご逝去された秋山孝氏の作品を展示・収蔵する「秋山孝ポスター美術館 長岡」および「蔵」が収蔵作品とともに、令和4年11月に長岡市に寄贈されました。「長岡市に寄贈したい」という秋山孝氏の遺志を引き継ぎ、ご遺族・秋山はる江さん（妻・東京都在住）から贈られたものです。今年4月からは、長岡市から運営業務委託を受けたミライ発酵本舗株式会社（まちづくり会社）が、旧機那サフラン酒本舗とAPMの運営を併せて担当していくことになりました。

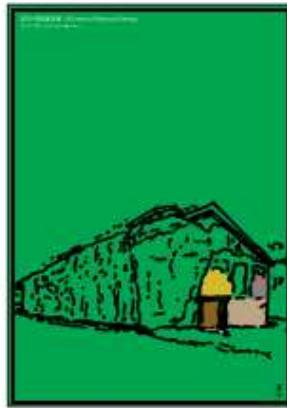


秋山泰・大庭勝介 AKIYAMA Tatsuhiko, ODAKI Shun'ya



30

[Title] —— 亂世·異能者
[Artist] —— 亂世·異能者
[Duration] —— 10:00 ~ 12:00
[Language] —— 繁体中文
[Year] —— 2012
[Album] —— 亂世·異能者
[Category] —— 亂世·異能者



31

[Title] —— 古里·阿爾斯雷布 古而雅 地食(新約聖經)
 [Date] —— 1930 - Till now (1931)
 [Technique] —— letterpress printing
 [Year] —— 2014
 [Client] —— 德國基督教新教聖經出版社
 [Category] —— Classics

前田「西原、14,15日(火曜日)午後遅めされたむじで、マジックアートの会場は最初に御宿館で、(その)後も東京駅の近辺で見付かり出でて来る。その後は御宿館の上層部で車を停めて上る。ヨリヨリ車を停めて上る事これが、新宿御苑の2階で停めていた。」(註)は、子供の頃は新宿御苑で「食事」を喰らうが子供たちは困った。春にむかうと、一面にソバを咲かせるそのアヅキの間に高さを腰廻した。黒い山羊にかけタグのテリヤキの匂が鼻をくすぐり、また、松葉をかじると舌をこむれてしまうのが御宿館で心地よい。今はローラーで走る電車が走る音が聞こえて、御宿館は12時頃まで開いて、おひるはまだ「おひる」ではない。



10

[Title] —— 青空・新宿御苑 晴天 6月8日 (柳原和也)
[Artist] —— H26 + 325 mm (S1)
[Technique] —— Soft air printing
[Year] —— 2014
[Place] —— 新宿御苑大門・高麗園北側
[Category] —— Culture

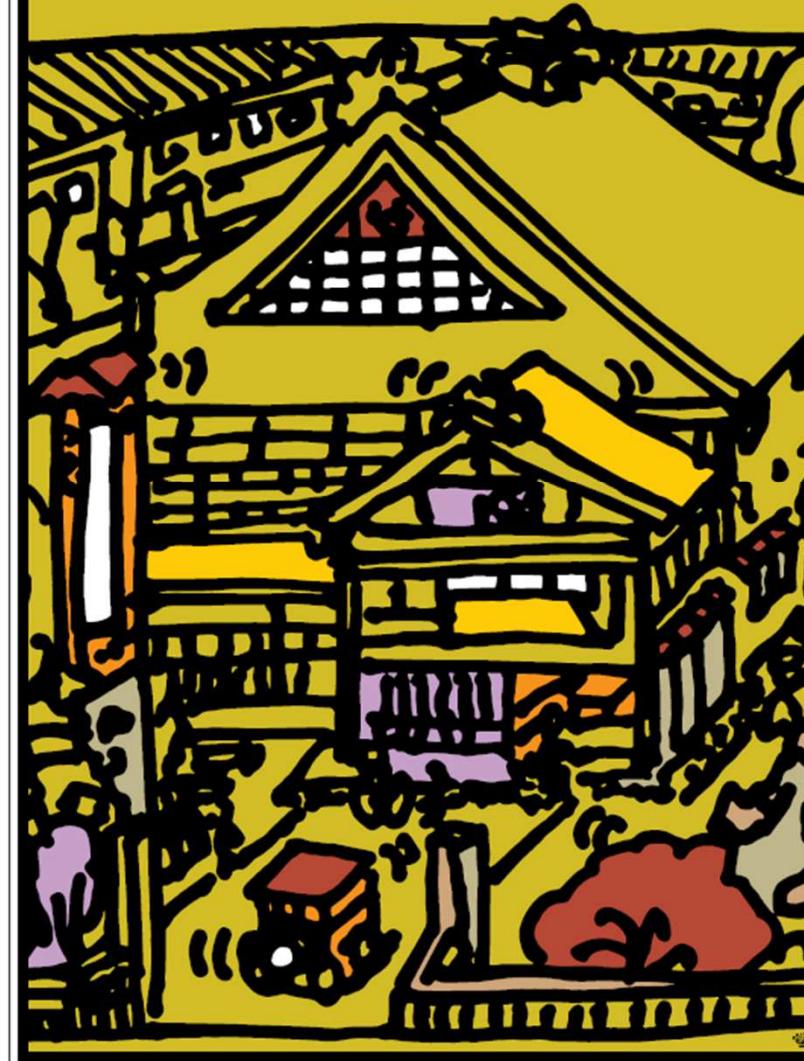
ほどの才覚物語で、アマゾン書籍で見つけた。そこには歌から人気にして居る者も手不足で困る」と書いていたが、やはり私も同じ感想だ。歌謡は伝統的民謡から音楽文化まで幅広く影響を及ぼす。もちろん「歌の文化」は、歌謡の文化である。歌謡は古くから子供の歌、田舎の歌、山の歌、田舎の歌など、農村の歌を中心とする歌謡が主なるが、山間の歌や川の歌、海岸の歌など、歌謡は多岐にわたる。歌謡は古くから子供の歌、田舎の歌など、農村の歌を中心とする歌謡が主なるが、山間の歌や川の歌、海岸の歌など、歌謡は多岐にわたる。



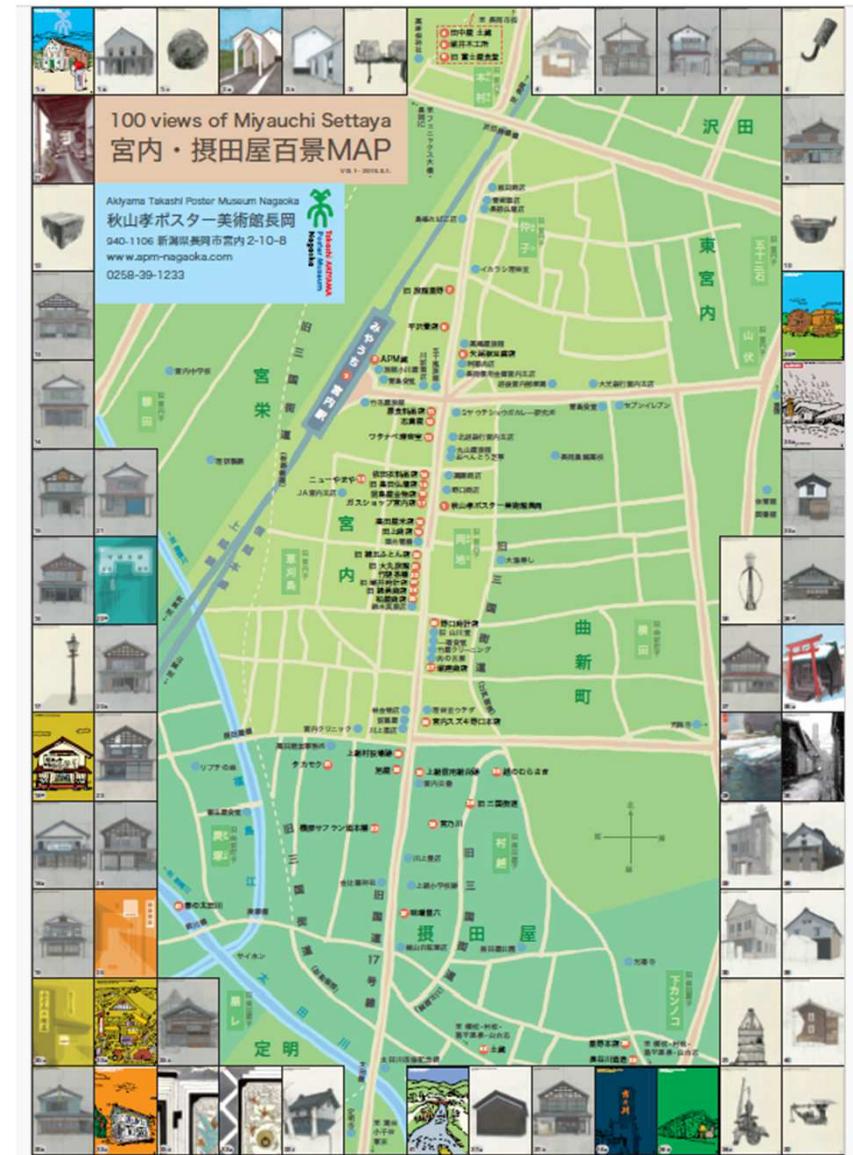
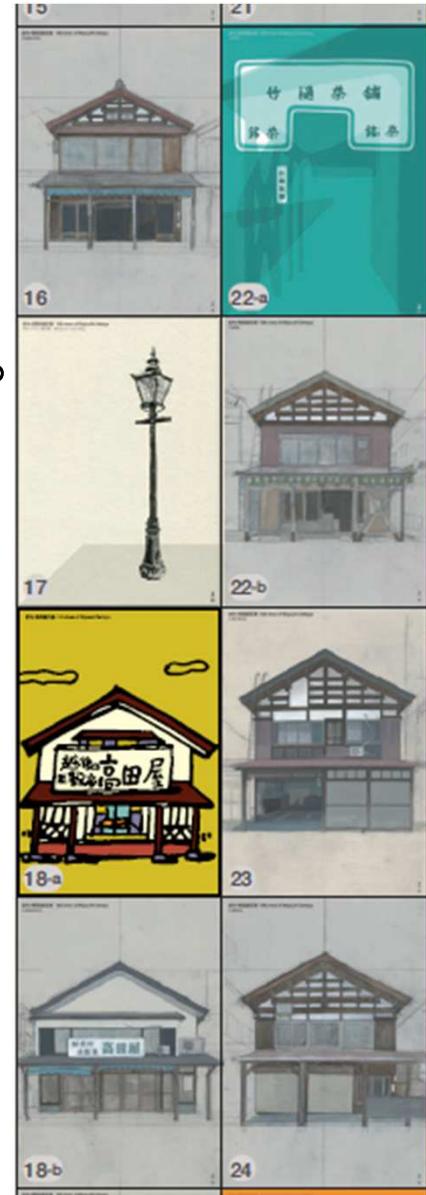
三

[Title] —— 里内・畠田和日郎 桃山悲太一・茶桶組長の『三浦』
[Date] —— 1961.7.22 (金)
[Technique] —— black & white
[Year] —— 2014
[Genre] —— 桃山悲太一・茶桶組長
[Category] —— Cuwan

100 views of Echigo Takashi Akiyarna Posters 4 / 2012.07.07sat - 09.23su
「越後百景十選」秋山孝ポスター展4



宮内 摂田屋百景MAPに
見られる商店の図も、
今や大変な文化遺産です。



ミニ知識 秋山孝先生のご先祖に秋山景山

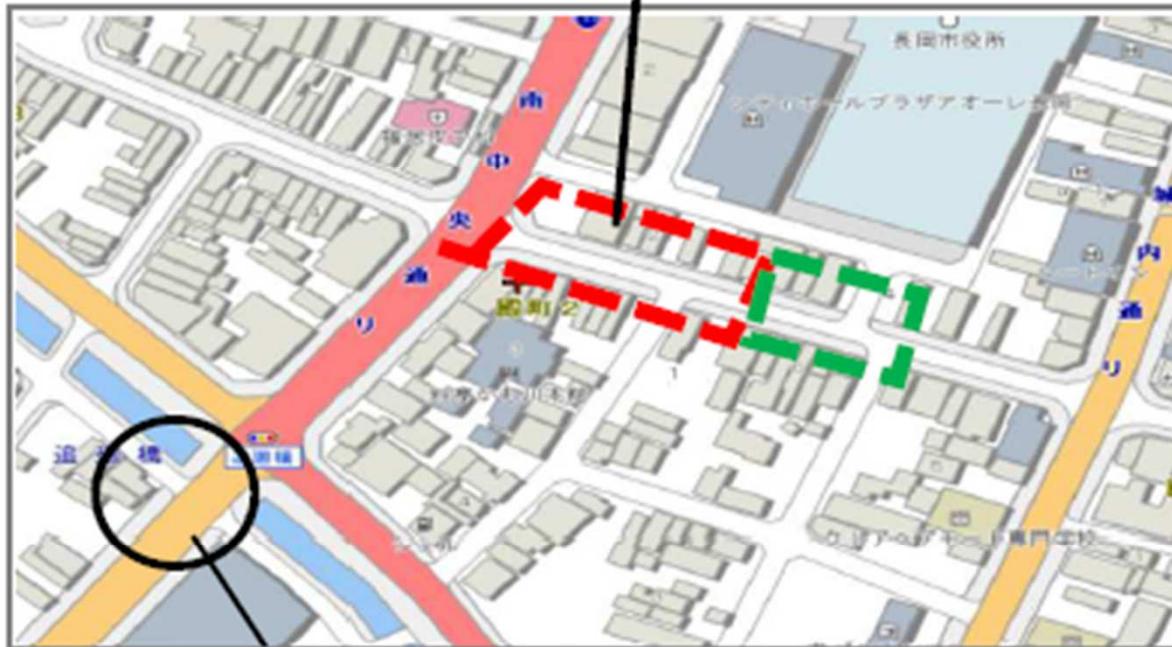
秋山景山 宝暦8年(1758)-天保10年(1839)

秋山家は代々牧野氏の家臣。九歳で家督六〇石を継いだ。

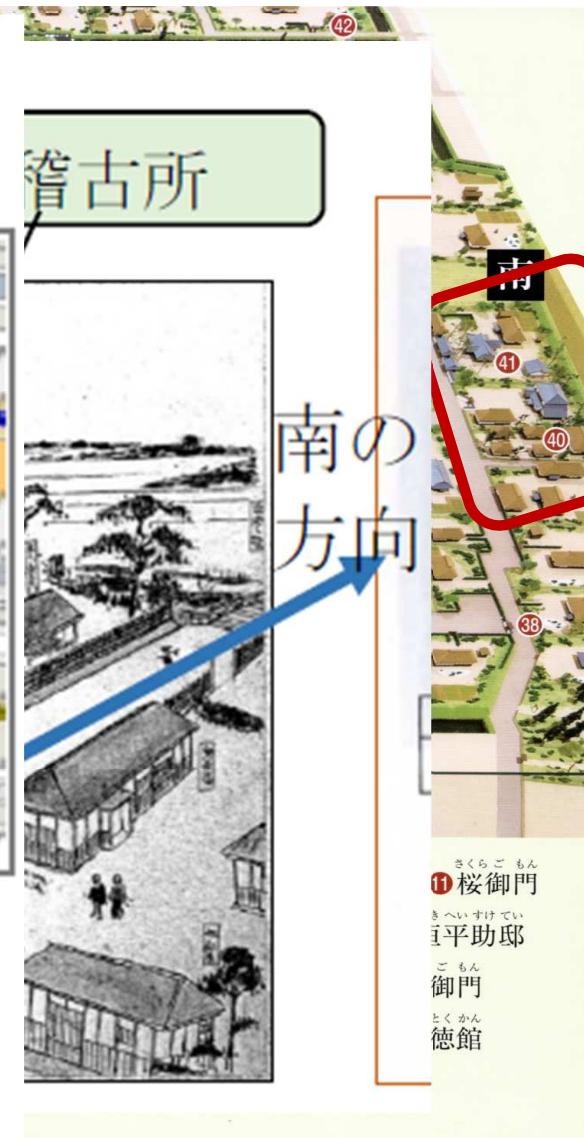
寛政五年(1793)、江戸で荻生学派の塾へ入門。荻生徂徠の実学尊重の考え方を身に付けた。

文化五年(1808)に藩校崇徳館が創設、秋山景山は「学問所主取」に任命され、実績により十二年には崇徳館都講(校長)。天保7年までの間、通算二十一年もの間、都講として崇徳館の教育をリードした。

藩校、藩主別邸の 予測位置(各、赤と緑)



追廻橋と柿川



ここにいた人物

藩校 九代忠精公が藩校創設、
1823年に東隣に有隣亭を建て、
家老の山本老迂斎・高野余慶・秋山景山。

後の、山本帯刀、高野五十六、そして秋山孝さん。

その付近に、明治維新後の明治14年から20年間、漢学塾
誠意塾

塾長 高橋竹之介、塾生に堀口久萬一、
武石貞松、大竹貫一ら。

4. 番外編として、河上伊吉、松岡譲

鎧絵の技だけでも、貴重な作品だと思います。

河上伊吉の鎧絵は、ただ塗るのみならず、
ほかの鎧絵にはない、鎧の動きを感じます。



南面の酉は、今まで
感じていた以上の、
グラデーションの冴え、
足の力強さ。
鎧だけで、ここまで。

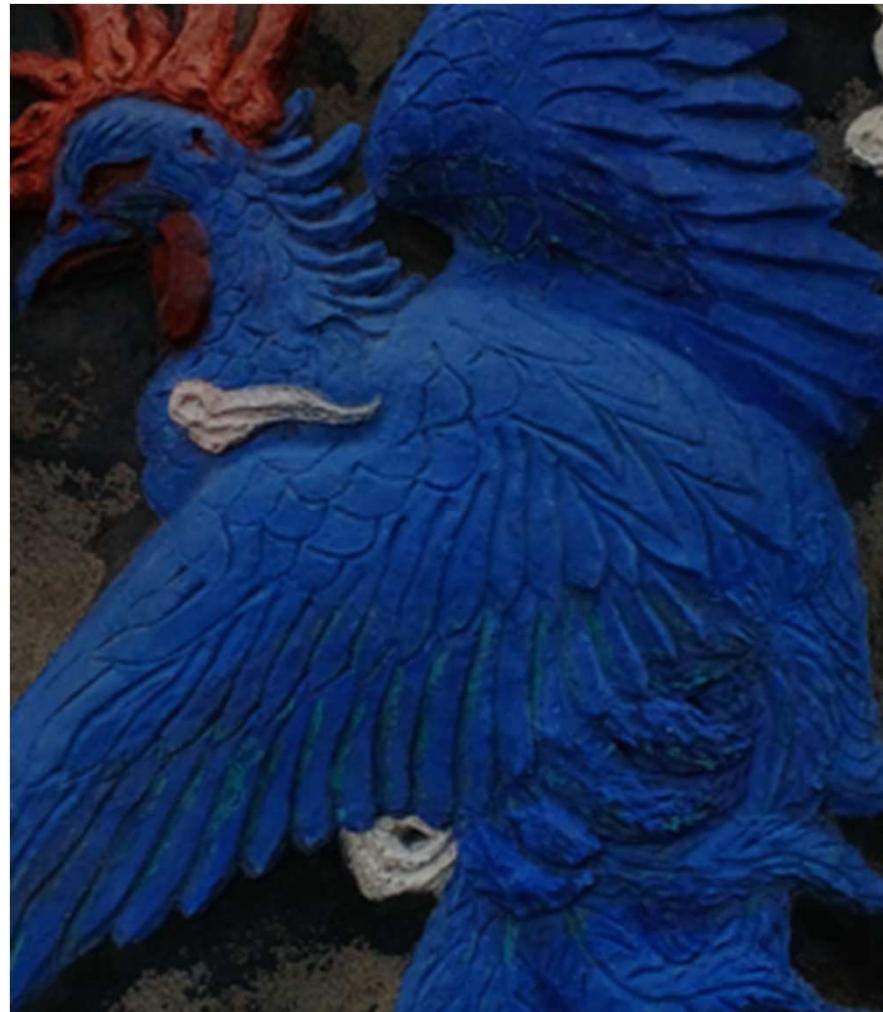
いったい何色の薄茶
の色漆喰を準備して
いたのでしょうか。

南面の酉、兔の頭部の細密描写。驚きました。
離れてみるのだから、ここまで不要と思われる
ところも、細部描写への圧巻のこだわりです。

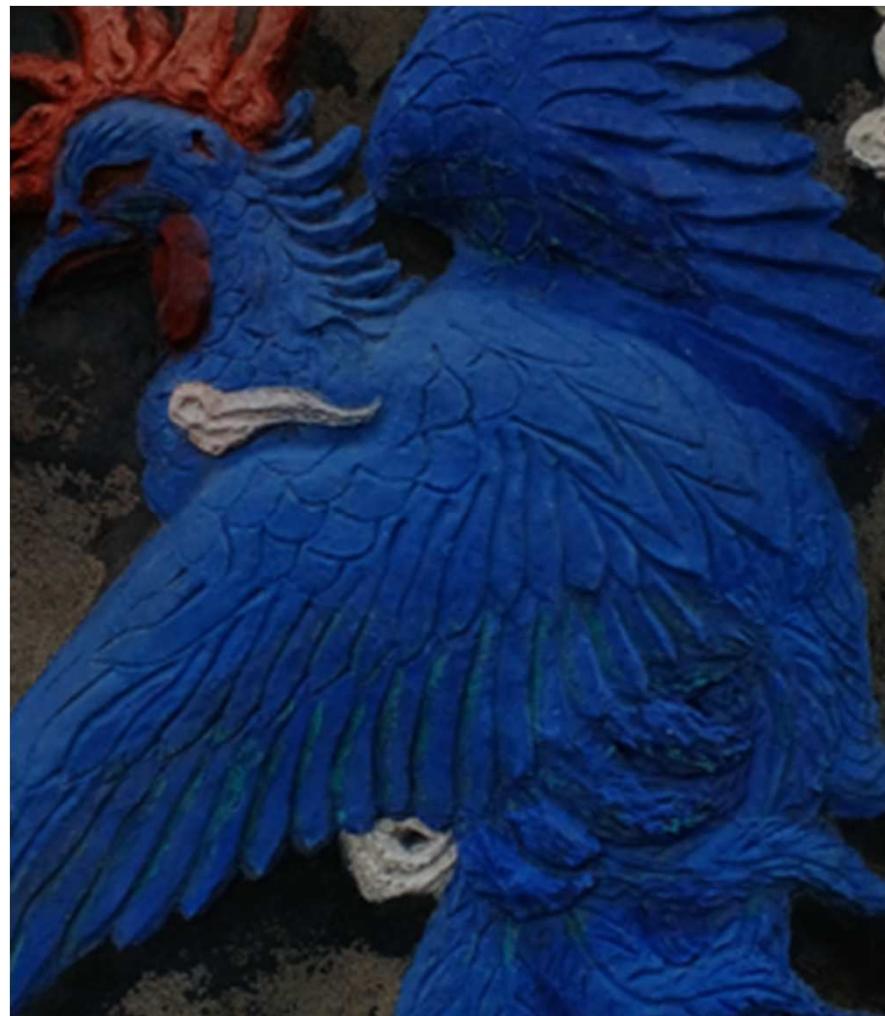


今までも、美しいと
思っていましたが、
青の色だけでなく、
鎧の技も凄い。

鳳凰の翼が、
このような微細な表
現だったと、誰が
知ってたでしょうか。



フレスコ画の技法として
も、注目すべきところが
あるそうです。



土間から蔵の
四枚の錫絵。

『日本一の錫絵蔵』
外観のみならず、
内側の美しさでも
日本一。



番外編の二人目として 小説家・松岡譲(1891 – 1969)

村松に生まれる。太平洋戦争の一時期、
摂田屋に疎開し、戦後は悠久山に居を移す
までの数年間、摂田屋で生活していました。

文人画家としても知られており、悠久山にある
郷土史料館に、彼のスケッチブック、油彩画が、
油彩画の絵具箱などの愛用品とともに、展示
されています。

夏目家に寄寓していた画家の直接絵の指導を受けており、晩年は書画の個展を度々開いていました。

長岡の郷土資料館の絵画は多くありますが、ネットでは見つかりませんでした。



ネットにあった作品ですが…

小説家人生では、つまらぬ雑事に煩わされた時期があまりに長かったですが、もし、これがなければ、国民的小説家のひとりになったと思います。

自伝小説『法城を護る人々』の作者として知られていますが、個人的には、『敦煌物語』が好きです。

中央アジア探検の史実に沿っているだけでなく、西域の歴史や地理、仏教東漸や仏教美術、仏典の深い知識の上に小説化されており、学術的話題もやさしく書かれています。～個人的にも、好きな小説です。

摂田屋では雑魚採りに興じたそうで
その川は、ガスト近くを流れる川とのことです。
ちなみに宮内小学校の校歌の作詞者は松岡譲です。
当時の校長さんと釣り仲間だったとか。

もうひとつ、アートとの接点として、松岡譲は、
関原で出土した火炎土器に感銘を受け、東京の五輪
聖火台にどうかと組織委員会に提言したそうです。
(『評伝 松岡譲』)

やはり、芸術の眼を所持していた。慧眼ですね。

5. 美術の風土

摂田屋で、平澤熊一、川上四郎、そして秋山孝と、次々とアートの世界で活躍する人が登場しました。何か、摂田屋の風土と関係ものがあるのでしょうか。近隣の地域でも、吉田では横山操、亀倉雄策、与板では三輪晃勢、三輪晃久、大矢紀と、アートで活躍する人が続いています。それぞれ当地のかつての豪商の関係先を生家に持つ人もいる。その土地の経済力も関係しているのでしょうか。

大坂屋三輪家が育んだ与板の美術の風土

与板の大坂屋三輪家は牧野家が分封の頃に与板に移ったという。信濃川を往来する船運で繁盛し、各藩に資金貸付や回米両替商として発展した。宝暦年間には日本三指の大豪商に数えられたという。1892年(明治25年)に三輪家第11代当主三輪潤太郎(実業家、衆議院議員)が庭園造園で有名であるが、その実弟が洋画家の三輪大次郎(越龍)、その越龍の息子が日本画家の三輪晃勢、その息子が日本画家の三輪晃久であり、三輪家は、多くの画家を輩出している。

長岡の美術の風土

各時代の優れたアート作品の存在、日本画・洋画・彫刻・仏像・工芸から土器までアートの範囲の広さ、美術館・寺社や町なかなど所蔵・展示する場所、各自の多様さという点で、個人的には、全国地方都市の中で有数ではないかと思っています。特に江戸時代の長岡は譜代大名牧野家の越後長岡藩城下町で、交通の要衝ということもあり、武家文化、町人文化が花開きました。明治二からも、有力商人が日本美術院の画家を支援、その精神文化は、城下と周辺の村々が壊滅した戊辰の廃虚の中でも消えことなく、今日の文化都市長岡を形成してきた歴史に繋がっていると思います。